

B-22 合成染料によるリュウキユウバシヨウ繊維の染色について

帝国女大家政 ○小笠原正亮 後藤四男

目的 リュウキユウバシヨウ繊維の染色は従来から植物染料が使用されているが、今回合成染料を使用して鮮明かつ堅ろうな染色を得ようと試みた。そのためにリュウキユウバシヨウ繊維の染色性、各種属染料中から適当なものを選定、染色方法の決定（後処理を含む）、染色物の堅ろう度等について検討した。

方法 1. キサントプロテイン反応、ビューレット反応、アダムキュービッツ反応によりタンパク質の存在の確認 2. 鑑別用染料により試染を行ない、対染料親和性の判別 3. 絹類似の染色性にもとづき、直接染料、酸性染料等で染色し、染色条件を定め、後処理法を検討 4. 最適染料群を求め、その染色物の堅ろう度（日光、洗たく、汗）を測定

結果 タンパク質検出反応の結果は各反応共陽性であり、鑑別用染料の呈色からもセルロースとタンパク質とが混在する繊維であることを認められた。各種染料の染色結果から、ミリング型酸性染料を酢酸と芒硝とを含む染浴で染色し、有機ポリアミン系フィックス剤で後処理したものが鮮明かつ堅ろうであった。但し黒色についてはダイレクトファストブラック B で染色し、前記フィックス剤で後処理をしたものが良好であった。